

研究・調査報告書

報告書番号	担当
409	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Lifetime major depression is associated with coronary heart disease in older adults: results from the National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions.</p> <p>高齢者においては、大うつ病の罹患歴は冠動脈疾患と関連している</p>	
執筆者	
Herbst S, Pietrzak RH, Wagner J, White WB, Petry NM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Psychosom Med. 2007 Nov;69(8):729-34	
キーワード	
冠動脈疾患、気分障害、不安障害、高齢者	
要 旨	
<p>目的： (米国の) 全国的な高齢者の代表集団を用いて、気分・不安障害と冠動脈疾患(CHD)との関連を検討する。</p> <p>方法： アルコールとその関連疾患に関する全国疫学調査 (National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions) のデータを解析した。60歳以上の10,753人が対象。</p> <p>結果： 対象者の13.3%がCHDを有すると報告した。CHDと有意に関連していたものは以下であった：年齢(オッズ比(OR)=1.04)、病的肥満 (OR=1.60)、高血圧 (OR=2.29)、ニコチン依存 (OR=1.41)、薬物使用障害 (OR=2.19)。男性に比べた女性 (OR=0.73) および禁酒者に比べた機会飲酒者 (OR=0.71) とではCHDのオッズ比が減少した。これらの要因を調整してみても、生涯で大うつ病に罹患したことのある者はCHDの危険性が有意に高かった (OR=2.05)。一方、不安障害ではこのような関連は見られなかった。生涯における気分障害の既往とCHDとの関連は男女の別、うつ障害の回数 (一回か複数か) に関わらず同様であった。</p> <p>結論： 高齢者においては、生涯のどこかで大うつ病 (の既往) を有することがCHDの危険性を高めることがこれらのデータから示された。</p>	